

嘘みたいに笑う獣たち

1

2

3

1、 木片を持つてくる。犬みたいにじやれている。

1 可愛いなあ、お前。こら、そんな暴れるなつて。(お客さんに向かって)、ねえ、可愛いでしょう？ こいつ。…何だと思えます？(答えは犬。(別のお客さんに)犬種何だと思えます？(正解は秋田犬)。(別のお客さんに)名前、何だと思えます？ うん、ありがとございませう。ただの木に名前つけるわけないじゃないですか。

2 演劇人とは稀有な職業である。

3 いや、物語を作る職業は皆稀有なものである。

1 それはつまり嘘を生業とする者たち。

2 現実を欺き生きている者たち。

3 誰もが実在する何かを相手にする中、

1 空虚な何かを作り上げていく。

3 それはまるで砂の城。

2 雪の花。

3 見た目ばかりのハリボテ。

2 ベニヤに囲まれた劇空間。

1 僕たちは嘘を声高に叫びあう。

2 共演し、共鳴し、響きあう。

3 獣のように盛りあう。

それぞれが鳴き声を上げる。雄たけびのような、どこかに届けるだけ届けたい叫び。

1 笑い始める。

2 何笑っているの？

1 だつて、

3 だして？

1 僕は獣なんかじゃない。

2 獣のようになる時もある。

3 獣のように見せる時もある。

1 それは演劇的に、な。本当に本質が変わっちゃうわけじゃない。そこらでいきなり生肉を食らうか？ 盛つてやり始めるか？

2 食わない。

3 ヤらない。

1 だろ？

2 じゃあ、

1 じゃあ、

2 代わりに嘘をつく。

1 嘘？

2 今日も今日とてそうだ、嘘をつきに来たのだ。

3 イチニサンシ！ この準備運動は嘘のために！

皆 嘘のために！

3 よりよい嘘のために！

皆 よりよい嘘のために！

3 筋トレ一つ取っても、上質な嘘のために！

2 お風呂上がりのスキンケアも、最高の嘘のために！

3 この血も肉も、一片残らず嘘のために！

1 滑稽だ。

3 今更だろうそんなの。

2 だけど、人は嘘に金を出し、

3 時間を費やし、

2 大会を開いた。

1 大会？

3 その名も、天下一嘘一會。

1 響きだけでつけたらそれ。

3 何にせよ、どれが一番良い嘘かが、選ばれてしまうんだ。

1 滑稽だ。

㉔ 滑稽も滑稽。滑稽で結構、結構滑稽なことなど、承知だ。それに、最高に人間らしくていいじゃないか。
「人間らしい?」

㉕ 人間ぐらいしか、嘘をつかないから。人間だけが嘘をつける。

「それは、逆ではないのか。人間だけが未だに嘘をついている。下らない欺きあいを続けている。猫も鳥も虫でさえも、卒業した、嘘にまだしがみついている。…お前でさえも。」

「ワンワン。」

㉖ その中でも、演劇人は嘘を生業としている。

「ああ、世界の落ちこぼれ演劇人。取り残された人間の、その中でもそれを生業とすることでしか生きられない。背負ってしまった嘘という業に潰されそうになっている。しかしまた、その業によって生かされている。」

㉗ 高尚なふりなど元からしていない。

㉘ 下賤だと卑下をするわけでもない。

「ただ、生きるためにそれを選択した。」

㉙ 豊かに生きるために。

㉚ 楽しく生きるために。

「あなたもまた、そうでしょうか? 楽しくて、生きてる心地がして、自分が一番上手に嘘をつけると思ったから、この天下一嘘―会に出ることにした。」

「そう、この三人でなら一番上手に嘘がつけると思ったから出ることにした。後五分、走り抜けば勝ちが見えてくる。…三人?」

㉛ 三人。

㉜ 三人。

「この天下一嘘―会に出れる役者は?」

㉝ 三人。

㉞ 二十分。

㉟ ガチンコ一発勝負。

「じゃあ、こいつは?」

木片を拾い上げる。

㊱ 木片。

「木片なんかじゃない。」

㊲ 材料の木。

「材料の木なんかじゃない。」

2 じゃあ何だ？

3 何であると言うのだ？

1 犬だ。

3 犬。

1 そう犬だ。

3 ワンとも言わないの？

2 尻尾を振りもしないの？

1 犬だ。犬だ！

2 それは先ほどまでの演劇の話。

3 現実の話ではない。一線を画した向こうの話。

2 それが本当に犬であると言っなら、気が狂っているぞ。

3 マトモではない、マトモではないぞ。

1 演劇の話であるから、ややこしいのだ。

2 どういうことだ？

3 どういうわけだ？

1 演劇における僕という存在は極めて稀薄であり、脆いもので、薄氷の上に立っているようなものだ。僕が僕であるためには、僕が僕であると自認するだけでは足りないのである。ほかの役者が、お客様が僕を僕として認識して初めて、成り立つのだ。僕が王様になるのも、奴隷になるのも、医者になるのも、患者になるのも、僕が演じるというただそれだけでは成立し得えないのだ。

3 それはそうだ、本当の一人芝居などありえないのだ。

2 ありえるとしても、それは真に人に認識されない孤独芝居と言うものだ。

1 では、これはどうだ？

2 木だ。

3 木以外にはあるまい。

1 そう、木だ。

3 さっきと言っていることが違うぞ。

2 本当に狂ったのか。

1 だが、これは僕が、お客様が、犬として認識したモノである。

1 一人！

1 これと僕らの間に何の違いがある。これが役者ではなく、僕らが役者である理由はどこにある。

3 ……………狂っている。

- 1 それは僕か？ 世界か？
3 どうちいも。きりふちちいも。
2 いや、どうちいも狂っていないのかももしれない。
1 どうちいもいふ。
2 どうちいもいふことはないだろう。
3 何を考えているんだ。
1 どうちいもいふんだ。問題は、
3 狂つていると言われているんだぞ。
2 どうに頓着しようと言うのだ。
1 問題は、演劇だけではないということ。
2 何を言っているか分からないな。
3 これは演劇中の問題。演劇で始まり演劇で終わっていくのではないのか。
1 木片と僕らに何の違いがあるだろうか。
2 うっ。
3 うっ。
2 おえっ。
3 おええ。
1 …お前と僕に何の違いがあるんだろうな。
2 わんわん。
3 わおーん。
1 お前も僕も役者だよな。
2 わんわん。
3 わおーん。
1 何のために存在してるんだろうな。
2 二人 何のために存在するのか。
1 訳もなく意味もなく理由もなく、どこに行くんだろうな。
2 二人 おえっ。
3 存在意義など考える前に、生まれ落ちた命を見てやれよ。
1 見てるぞ。見てるからこそ思うんだ。
2 誰もそれが役者なんて考えない。

「僕は考えた。

③ 黙っている。

② 見なかつたことにしろ。

「殺せとっ。」

二人 …。

「この命に何と説明すればいい？」

② 生まれなかつた。

③ 存在しなかつた。

「命を見ろと言つたのは、誰だ？！」

③ それが本当に命を持つならな！

「持つている！」

② 温もりを宿しているか！

「？！ 確かに、犬だつた！」

二人 木だ！

「犬だ！」

二人 木だ！！

「犬だ！！！」

二人 毛の一つもない、その木目に命は見えるか？ 鳴動する心臓を持たない、息吹くことを知らない、それは単なる木だ！！

「いいや、確かに犬だつた！！」

二人 現実を見ろ！！

「見たくない！！ 犬だつた！！ ねえ、犬でしたよね？ 確かに、犬で、僕の腕に抱かれましたよね？」

じやれて暴れて、命を発露してましたよね？ ここで、生きてましたよね。…これが犬でなかつたなら、僕は何なのだ？ 僕らは何なのだ？

二人 おえっ。

「何であり、何に見え、何であるべきなのだ？ 天使か悪魔か神か、気狂いか、空気の読めないままに正論をマシンガンのように吐き散らす存在か？ 何に見える？」

② 見えてしまっている？

③ 見えているから、そのままの存在なのか？

「獣、か？ 剥き出しの、獣か？ …ちゃんと見てください。見てください。見てください！」

二人 …。

「、木片を銃にし、二人を撃ち抜く。

「最初からこうしていればよかったんだ。多いなら減らしてしまえばいい。すり切り一杯。すり切られた物に
思いを馳せる人などいない。

「がつつかと歩いてくる。

「二人が起き上がる。

「死なない

「死ぬはずがない。

「だってこれは嘘の世界だから。

「虚構の世界だから。

「劇だから。

「だから皆、好きなんじゃない？」

「確実に嘘だから。

「本当のことなんて一つもない嘘だから、

「安心して浸っていられる。

「お約束の安全圏だから。

「本当か嘘か分からない現実。

「マスターのあの人はクスリをキめているかもしれない。

「隣の人は、誰かを殺しているかもしれない。

「愛するあの人は浮気しているかもしれない。

「道行く人は強盗かもしれない。

「確かなものなど一つもない。

「お前も、お前ですらも！

「自分ですらも曖昧で、

「疑って、疑って、

「だけどういなら

「真に嘘だ。

「茹ついて、いられる。

全員、糸が切れたように、ふうつと腰を落とす。

1 電気もガスも水道も止まりました。

2 それでも何だか無理して働くよりかは楽な気がしました。

1 生きることに飽き飽きしてきたのかもしれませんが。

3 そりゃそうだ。もう二十五年もやってるんだ。

2 飽きたつて誰も文句は言わない。

1 自分をすり減らしながら生きることは間違っていないのに。

2 自由に生きることは、間違っているとされる。

2 ああ、

1 ああ、

3 ああ、

2 獣であれば、良かったのに。

1 最低限文化的な生活ですら、蝕んでいく。

3 李徴のように虎になってしまえばよかった。

うあーん、うあーんと、どこか頼りなさげな遠吠え。

1 僕は、獣なんかじゃないー！

2 臆病な自尊心も、

3 尊大な羞恥心も、

2 生憎持ち合わせてない。

3 人生の財布はもう、空っぽのからんどうだ。

1 虎のように牙をむくことすら、僕には許されていないのか。

3 お前が牙のない虎だと言うなら、俺は龍になろう！

1 牙のない虎に龍が倒せるものか！

3 ああ、倒せないだろうな。裸一貫着の身着のまま挑むようなものだ。

1 どうしてこんなことに。

2 蛇に唆され知恵の木の実を食べたアダムとイヴのせいだ。

1 龍ではなかったのか。

③ お前がどう認識するかだ。本質は問題ではない。

① 違う。本質だけが問題なのだ。

② 二人ではお前も食べるのか？

① 何を。

② 二人 木の実を。そして知るのだ。

① 何を。

② 二人 現実を。

木片を木の実に準えて、食べようとする。口に入ろうとしたそのマックスの瞬間。

① もしもし。

③ すみません。今月分の家賃の引き落としがされてないんですけども。

① すみません。

③ こちらの方、さっきゆーに支払いしていただけないと、ひじょーに困るんですけども。

① すみません。

③ じゃあ、支払いの方よろしくお願いしますね〜。

② お金？

① …。

② もう貸さないよ。

① ごめん。

② こつちも余裕ないんだから。

① そうだよね。

② じゃあ、そういっことだから。

③ 三人 電気もガスも水道も止まりました。

① 心臓が止まるのも、時間の問題です。

③ きつとそんなに長くはない。

② だがそんなに短くもない。

① 時間の問題ではあるが、時間は問題ではない。

② 生き急ぐのか？

③ 死に急ぐのか？

- 1 どちらでもない。
- 2 どう生きるのだ？
- 3 どう死ぬのだ？
- 1 どう演じるかだ。
- 2 死にもせず、
- 3 生きもしないのか。
- 1 後、十分。演じ終えられればいい。
- 2 まだ演じようと言うのか。
- 1 幕は降りていない。
- 3 降ろせばいい。
- 1 それは僕が決めることではない。
- 3 では誰が決めるのだ。
- 1 お客様。
- 1 二人……。
- 1 あるいは、
- 2 二人 あるいは、
- 1 こいつが決める。

(カカンと短く拍子木の音が入るかも)

- 2 二十五歳まで生きてきましたが、
- 3 あるいは死にそびれてきましたが、
- 1 人生というのは、上手くなりません。
- 2 二十五年も何かを続けていれば、
- 3 それはそれはもう、達人級であるべきですが、
- 1 未だに素人レベルであります。中でも、
- 3 中でもっ。
- 1 恋愛は見えていられないぐらいに下手くそであります。
- 2 そんなに？
- 1 そんなに。

- 3 無様？
- 1 無様。
- 3 何をそんなに卑屈になってるんだ。
- 1 自信がなくて…。
- 3 自分を信じられない人間を、誰が信じられる？
- 1 それは…。
- 2 自分を愛してくれる保証のない人間を、誰が愛せる？
- 1 それは…。
- 2 それは？
- 1 少し違います。
- 2 ほう？
- 3 どうして？
- 1 見返りの保証がなくても、僕ここに愛がありますから。
- 2 なるほど。
- 3 確かに。
- 2 言うねえ〜。
- 1 何ですか、もう。
- 3 それで、
- 1 は？。
- 3 ？？？。
- 1 ？？？。
- 3 するの？
- 1 するの？…何を？
- 2 告白。
- 1 告……白う…！
- 2 そう。
- 1 僕が！？ そりゃそうか。僕しかないか。え、僕！？
- 3 するの？
- 1 ……考えてなくて。
- 2 考えてない？

- 1 とうるか、多分、しないと、思う。
- 2 一人 ……本当に好きなの？
- 1 そうですよ！(この後も思いを細かく語り続ける。ただし、好きとは言わない)
- 2 演劇じゃなくて？
- 3 フイクションじゃなくて？
- 1 違うー！これはフイクションなんかじゃない！全部、全部本当だ…！！
- 3 じゃあどうして、
- 2 告白しないの？
- 1 ……迷惑をかけてしまうから。
- 3 ……迷惑？
- 1 僕はこんな活動をしているから。未来が分からない。
- 2 一人 あはははははははははは。
- 1 何がおかしい！
- 2 二人 お前は、人一人も背負えない薄っぺらな演劇をやっているのか？
- 1 違うー！そんなつもりで言ったんじゃないー！
- 2 二人 そんな薄っぺらな演劇で、生きて行こうと決めたのか？
- 2 生計を立て、
- 3 自立し、
- 2 生業とするのか？
- 3 業を背負い、業によつて生かされ、生きていくのか？
- 1 そうだー！
- 2 一人 あはははははははははははは。
- 1 何がおかしいんだよ！
- 3 ここにあつたじゃないか。
- 1 何が。
- 2 見事にあつたじゃないか。
- 1 何が。
- 2 臆病な自尊心。
- 3 尊大な羞恥心。
- 2 虎になる資格が、

- ㊦ 素質が、
- ㊧ 才能が、
- ㊨ 一人 お前は虎だ！
- ㊩ 違う、僕は虎じゃない。
- ㊪ お前が言った。その木と僕らに何の違いがあるのかと。
- ㊫ それが犬だと言うのなら、お前が虎であろうとなかろうと大差はないのではないか。
- ㊬ 僕は人間です！
- ㊭ 二人 人も獣も、等しく何の役目も持たないなら、同じではないのか！
- ㊮ それでも！ 僕は人間で、あの子のことが…！ あの子のことが……！！
- ㊯ 何？
- ㊰ 一 え？
- ㊱ 何？ どうかしたの？
- ㊲ 一 その……。(悶える)
- ㊳ どうかしたの？ 溺れたアルパカみたいになってるよ！
- ㊴ 一 わ、話題が…。
- ㊵ ㊦ 話題が？
- ㊶ 一 見つからない。
- ㊷ ㊦ 話題は物じゃないから、見つけるものじゃない。
- ㊸ 一 じゃあ、どうすれば？
- ㊹ ㊦ 作る。
- ㊺ 一 作る。作るうっ…！
- ㊻ ㊦ 作る。
- ㊼ 一 えっ、作れるの?!
- ㊽ ㊦ えっ、作らなきゃ話せないでしょう…。
- ㊾ 一 そうだけど…。こう、自然に会話って生まれるものじゃ…。
- ㊿ ㊦ それはプロが出来ることだね。
- 一 プロオ…？
- ㊿ ほらほら、考えて、頑張つて。
- ㊿ いい天気だね。
- 一 そうだね。

- 2 お出掛けするのにうってつけだね。
- 1 そうだね。
- 2 お昼は、なに食べようか？
- 1 そうだね。
- 2 そうだね？
- 1 そうだね。
- 3 そうだねしか喋れないのかお前はー！
- 1 もう、会話の仕方忘れちゃったんだよ！
- 3 忘れたあ？！
- 1 ひたすら書いてたら、もう、なんかそれしなくなっちゃって！
- 3 なんかないでしょ！ なんかが！
- 1 シェイクスピアの話ぐらいしかないよ！
- 3 それでもいいー！
- 1 良くないよ！ 朝起きて歯磨いてる時に「今日リア王の話したいなあ」とか思うっ！
- 3 思うやつもいるかもしれないでしょ！
- 1 少なくとも僕は思わないよー！
- 3 じゃあ誰も思わないよー！
- 1 だろっ？！
- 3 だよー！
- 2 あっ……。
- 1・3 何ー？
- 2 この後、どうしますっ？
- 1 この後？
- 2 はい、この後。
- 1 ……！(苦しむ)
- 3 そんなに悩むことか。
- 1 演劇、見に行きませんか？
- 1 二人 演劇に失礼だと思わないのか？
- 1 失礼？
- 2 演劇に生きる者として、

③ 演劇を単なるコミュニケーションツールにするのか？

② ただその為だけにコンテンツを消費するのか？

① 二人 それは演劇に対して失礼ではないか？

① 消費される価値があるだけいいじゃないか！

二人 演劇・・・

① 演劇演劇って、演劇は何も思わないよー！

二人・・・

① 演劇は何も語らなければ、何も考えない。ルールもなければタブーもない！ 語るのは、人だ！ 考えるのも人だー！

② 演劇的にどうなんだ？

③ 観客はどう思う？

① うるせえ！ 演劇に定義もなければ、観客も画一的じゃないー！ どうなんだ？ と思ったのは、あなただ！ 他ならぬあなたの思考だー！ どうしてそうやって自分をほかしてしまっただ？ 全体のものにして、自分を薄めてしまっただ？ もっと、もっと自分の意思を、価値を、存在を、大切にすべきだ！

② こんな演劇じゃないー！

③ 全然面白くなかったー！

① あなたがそう思うことはとても素敵だ！ あなたが！ 思っただけで発露したことだからだ！ 僕はその全てが好きだ！ ここにいるお客様と、まだ見ぬホールを埋めるお客様、その全員を愛している。演劇が、好きだから。そして、あなたに・・・。

好きだと言いかけた瞬間遮る。

③ 時間です。

① へー

② 終幕です。

① どうしてー

③ だから、時間です。

② それで、終わらせてください。

① まだ、言えてない。

② おやすみの時間ですよ。

③ おはよりの時間ですよ。

① まだあの子に、好きと伝えられてないー！

- 2 いいじゃないですか。
- 3 最高にラブストーリーじゃないですか。
- 2 知ってますか？ 好きと言えない物語だから、
- 3 ラブを伝えられないストーリーだから、
- 2 二人 ラブストーリーなんですよ。
- 1 関係ない。あの子に、好きって、
- 2 現実で言うんです。
- 1 現実？
- 3 現実。
- 1 これは、演劇だから。演劇で始まり演劇で終わるんでしょう？
- 3 そう、幕は、
- 2 ここで、降りる。
- 1 だったら、
- 3 でも、ここで終わりじゃない。
- 2 始まっていく。
- 1 意味が分かんないよ、
- 2 ここで好きだと言って、
- 3 愛していると伝えて、
- 2 それで満足するのか？
- 1 違う。そうじゃない。
- 3 自分の人生の代理戦争をキャラにさせるんじゃない。
- 2 答え合わせを物語で行うんじゃない。
- 3 現実で、生きていくんだ。
- 2 それで、終わらせるんだ。
- 1 可愛いな、お前は。
- 2 おやすみの時間ですよ。
- 3 おはようの時間ですよ。

背中を向け、手を振り上げる」。だが、中々決心が着かず、限界を迎え、笑いだす。

「あははははははははは。

☺ 最高に人間らしくていいじゃないか。

「人間らしい？」

☺ 人間ぐらいしか、笑わないから。人間だけが笑える。

「それは、逆ではないのか。人間だけが未だに笑っている。下らない笑いあいが続いている。ああ、あああああああああああ……！」

叫びながら、闇に溶けていく。おやすみのために、瞼を閉じるみたいに。

拍子木の音が、響いて、消えていく。